

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立太子橋小学校

令和8年5月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、学校教育目標を「豊かな心と自ら学び自ら考える力を育てる」として知徳体のバランスのとれた子どもの育成を学校経営の重点に置いている。前年度の総括において、3つの最重要目標ごとに以下の通りである。

安全・安心な教育の推進については、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は85.3%となり目標を上回った。不登校児童の在籍比率を前年度より減少させることができた。

いじめ防止の意識付けはできている一方で、日常の言葉遣いや、他者への言動に課題も見られた。学校経営の重点である安全・安心の柱として、互いの違いを認め合い、支え合い、尊敬し合う「いじめ」のない集団を育てるために、自分を大切にするとともに、他の人の大切さを認めることができる児童を育てていきたい。同時に、気持ちのよいあいさつができること、きまりを守る規範意識を高めることにも取り組み、学校に行くのが楽しいと思う児童の割合を増やしていきたい。

未来を切り拓く学力・体力の向上については、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は54.2%となり目標を上回った。小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、73.3%で目標を若干下回ったが、大阪市の平均69.2は上回った。

これまでの話し合い活動や交流など言語活動の充実に取り組んできた成果が表れ、それらが学力の底上げとなっている。この強みをさらに確かなものにしていくために、より効果的な交流の在り方や指導法の工夫に取り組んでいきたい。体力向上運動推進に向けたアプローチについては、「教室遊びが好きな児童」も友だちとの関わり合いを通して「運動やスポーツすることが楽しい」と思える学級集団づくりが求められる。また、課題となっている握力や柔軟性を高める取り組みも必要である。

学びを支える教育環境の充実については、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の58.0%となり目標を上回った。教員のまた、時間外勤務時間が30時間以下の人数は平均して19名で目標を上回った。

教育DXの推進については、教員のICT活用スキルも高まり、児童の学習者用端末の活用が進んできた。今後は、学習者用端末の家庭への持ち帰り利用することも進めていく中で、児童のデジタルリテラシーを育成するための取り組みが求められる。

働き方改革に関わっては、さらに「働きやすさ」と「働きがい」を実感できる環境づくりを進め、教員一人一人がいきいきと子どもたちと向き合い、子どもたちにとってより良い教育の実現につなげていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、この4年間の平均で、肯定的に回答をする児童の割合を82%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、この4年間の平均で、肯定的に回答をする児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、この4年間の平均で、肯定的に回答をする児童の割合を87%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに、この4年間毎年0.1ポイント以上上回るようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、この4年間の平均で、肯定的に回答をする児童の割合を91%以上にする。
- 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を令和11年まで毎年累計月22時間以下とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を82%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を87%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに、0.1ポイント以上上回るようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。
- 本年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を累計月22時間以下とする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立太子橋小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を82%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>教職員の共通理解として、互いの違いを認め、支え、尊敬し合う「いじめ」のない集団を育て、子どもの安全・安心を最優先に、明るく落ち着いた環境でいきいきと過ごせる学校づくりを推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」の実施など子どもから発信される小さな心の変化をとらえ、いじめに発展しないように日頃から早期発見・早期指導に努める。 ・家庭での様子に変化があればすぐ学校へ連絡をもらえるような信頼関係を構築する。 ・「間違えても大丈夫」、「みんな違って当たり前」という価値観を大切にする「風土づくり」に努める。 ・教室以外にも「ホッとできる安全な居場所」を校内に確保していく。 	
<p>取組内容②【2 豊かなこころの育成】</p> <p>学校教育活動全体を通じて、「人に親切にする」「嘘をつかない」「ルールを守る」「進んで学ぶ」といった基本的なモラルや生活態度の育成に努める。その基盤として、まずは児童が「自分はかけがえのない大切な存在である」と実感できるように導き、同時に他者の大切さも認め合える児童を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめとはどんなにひどいことなのか」や「どんな理由があってもいじめはいけないことだ」という意識をもてるように『いじめについて考える日』を活かしたり、常日頃から指導したりする。 ・毎回の職員会議後の「いじめ防止等委員会及び児童理解研修会」を活用し、支援を必要とする子どもの早期把握、適切な支援の早期開始につなげるようにする。 ・「違いを認め合う」心を育むアプローチとして、子どもたちが互いの違いを「排除」の理由ではなく、「個性」として受け入れられるような意図的な指導を大切にし、「ここに居ていいんだ」「自分は認められている」と感じられる日常をつくっていく。 ・日々の挨拶奨励を通して、存在承認を徹底していく。 	

<ul style="list-style-type: none">・当番活動や行事において、一人ひとりの「出番」と「役割」をつくり、「あなたがいてくれて助かった」と実感できるよう自己有用感を高めるようにする。・にこにこ班活動での遊びや全校遠足を実施し、上級生は下級生を思いやる経験を、下級生は上級生に憧れ、感謝する経験を積むことで互いに認め合える児童を育てる。	
--	--

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
-------------------------	--

次年度への改善点	
----------	--

大阪市立太子橋小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を87%以上にする。</p> <p>○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに、0.1ポイント以上上回るようにする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>研究授業を通して、考えを深め、高め合う児童の交流の在り方について検証していく。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えを深める・広げる」という児童の様子を明確にし、学校内で「交流の在り方」を引き続き検討し、共有していく。 ・交流の様子を児童が振り返られる個別指導や意図的な声かけ等について検証していく。 ・研究授業、研究討議会等で検証したことをまとめ、共有することで、日々の授業で活かせるようにする。 ・校内児童アンケート「授業中、思ったことや意見を友だちと伝え合うことができます」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<88>%以上にする。 	
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <p>主体的に運動する習慣を身につけ、基礎的な体力を養うとともに、児童が運動をしたり、体を動かしたりする遊びに取り組めるように、学校行事、たてわり班活動、児童会活動等の全教育活動を運営する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所や関係局等と連携し、運動やスポーツに親しむ機会を確保する。 ・「教室遊びが好きな児童」でも自発的に運動できるよう、体育の授業の工夫や休み時間の友だちとの関わり合いを通して、「運動・スポーツが楽しい」と思える学級、集団づくりに努めることで、校内児童アンケート「健康に気をつけ、すすんで運動しています」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<90>%以上にする。 ・かけあしタイムやなわとびタイム等の体育的行事や児童会活動、その他の工夫を通して運動時間を増やしていく。 ・課題である握力や柔軟性を重点的に補うため、鉄棒やジャングルジムなどを活用した運動を学校で実践し、新体力テストの結果を昨年度より全国平均に近づける。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立太子橋小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。</p> <p>○ 本年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を累計月22時間以下とする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>学習者用端末をはじめとするICTツールなど、デジタル学習基盤の活用を前提に取り組む。特に、ICTを安全かつ効果的に使いこなす「デジタルリテラシー」を身につけられるよう、情報活用能力の抜本的な向上に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ローマ字入力」を習う学年(3年生)以降を中心に、朝学習やスキマ時間を活用してタイピング練習ソフト(らっこたん・ポケモンPCトレーニング等)を継続的に利用して、タイピングスキルの獲得を図る。 ・デジタルリテラシーを育てるための指導を日常的に行う。 ・5、6年生においては年に2回以上、それ以外の学年では年1回以上、発達段階に応じた情報モラル教育に関する授業を実施する。 ・学習者用端末の持ち帰りに伴い、「家庭での端末利用ルール(使用時間や場所など)」を保護者と連携しながら作成していく。 	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員がいきいきと子どもたちに向き合い、持てる力を存分にはっきできるように、働き方改革プラン【2026-2029】に基づく取組を進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の働き方改革チェックシートを参考にし、できる取組について実施していく。 ・前年度変更した日課表等について検証していく。 ・デジタルツールを活用し会議資料をクラウドで共有する等、ペーパーレス化を進めるとともに、教員間や地域・保護者との情報共有をさらに効率的に行うことができるようにしていく。 ・PDCAサイクルのプロセスを確実に実施し、学校行事や研修会の頻度や内容について見直しを行う。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点